

絵画の読み解きで、時代をつかむ！ ～17・18 世紀のヨーロッパ～

大阪教育大学附属高等学校池田校舎
藤井聡子(世界史) 梶木尚美(司書教諭)

1. 対象 附属高等学校池田校舎 第 1 学年 4 組 (41 名)

2. 単元設定の理由

(1) 教科の観点から

絵画資料というモノを通して時代や社会を読み取っていく学習活動は、ひとりひとりの発想を生かしながら歴史的思考力を培うのに有効である。また世界史は時空間軸から諸地域世界を多角的に見ることによって視野を広げたり、その時代の政治体制や経済状態とのつながりを見出して情報を整理したりする活動が不可欠である。生徒が難しいと感じるところでもあるが、つながっていく面白さを感じられるところでもある。

さて探究型学習を教科の授業に取り入れると考えると、進度が遅くなり、教科書にある十分な知識量をこなせないとの懸念からなかなか取り入れられなかった。教科の学習として成立させるためには生徒が興味のあることを好きに調べることに任せるのではなく必要な領域において彼らの学びをガイドする必要がある。絵画資料を利用したさまざまな先行授業研究でも「絵画表現とその絵画の作者の生きた社会の状況との関係をめぐる因果関係(社会的意味と呼ぶ)の解釈へと向かわせていくことの重要性が共通して指摘されている」(佐藤廣 1994)。さらに加えて時代をよみ、社会的事象の意味や意義を解釈する力は、自分の考えをもって判断し生きていく力になるであろう。

一方で必修世界史はまた、生涯学び続ける意欲につなげるものでなくてはならない。文化史の学習という作家と作品の暗記に終始しがちだが、些末な暗記学習より絵画鑑賞体験の方がはるかに大切ではないか。文化史を今、やり直すなら？と部会で話題にすると「時代背景を踏まえた鑑賞ポイントがわかったらうれしい」という意見が出た。確かに大人になってヨーロッパ旅行などで美術館に立ち寄り、高校時代世界史で学習した作品に出合ったときに、一度ならずその感動を味わったことではないか。しかしながら、美術科の絵画鑑賞と違いをはっきりさせなければならない。世界史の絵画鑑賞として、生徒の考える力と鑑賞力が結ばないかと考えていたところ、「対話型鑑賞 Visual Thinking Strategies」に出会った。作品をグループで鑑賞して言語化し、対話をしながら多角的な視点で考えて、作品の見方を深めていく方法である。MoMA で開発された Visual Thinking Curriculum をもとにした鑑賞法である。本来は知識に頼らずに鑑賞する方法であるが、鑑賞の進め方の手法を取り入れて時代性をつかめるようにアレンジしたものをおこなう。

(2) 学校図書館の観点から

高校 1 年生は週 1 時間の総合的学習で ESD(持続発展教育)に取り組んでいる。長期的な

探究活動としては、この時間の中で進める国際的諸問題についての探究型学習があり、4クラスの生徒たちに対して7名の教員が担当している。ここでは、環境、エネルギー、紛争、人権、貧困など、現在私たちが直面している課題を認識し、持続可能な社会にむけて問題解決に取り組むことを目指した活動をしている。担当する教員の教科は理科・数学科・保健体育科・地歴公民科・英語科と複数にまたがっており、月一回の会議で議論や情報共有をして教科横断型のチームとして協働している。このような年間を通しての大規模な探究型学習は、もちろん大きな意味を持つ。しかし、探究するという学びの姿勢やスキルは各教科の日々の授業の中でも学ぶことが可能であるし、探究力を身に付けた生徒は教科でも総合的学習でも、その力を発揮して自主的に学習に取り組むことができるはずである。ここでは、教科の年間計画を大幅修正することなく取り組める授業時間数で、小規模な探究型学習を実施する。

高校における伝統的な歴史の授業のあり方は、教師が教科の内容を生徒に伝授するという形で進められるイメージが強い。歴史教育においてしばしば議論されるテーマの一つにも、暗記科目からの脱却ということがある。もちろん教科書の内容をわかりやすく解説することは必要である。しかし教科の学びを深めるためには、授業の成立基盤を生徒自身に置いて、生徒による探究ということを意識した授業が必要であり、そういった授業を展開するためには、教科内容に基盤を置いた情報提供者としての教員像から発想転換するべきである。

授業の題材である17～18世紀のヨーロッパの絵画からどのような情報を読み取ることができるのか。また他の情報を収集して分析することで何が新たに分かるのか。生徒の間をベースにした授業を、ファシリテーターとしての教員チームで展開したい。また各生徒の学びの状態を把握するために、ワークシートや成果物などを随時評価し、ルーブリックを共有して各生徒が自ら授業のゴールを目指すことができるように適切な指導をしたい。

3. 単元の目標

(1) 教科

- ・政治、経済、思想などは文化に対してどのように影響するのか一時代を読み、社会的事象の意味や意義を解釈する力を養い、自分の考えをもって判断し生きていく力を身につける。
- ・文化と社会のしくみや人々の価値観等は密接に関連する一様な社会に様々な文化が存在することから、文化的多様性の尊重につながる多文化共生の精神を培う。
- ・探究と調査のためのスキルをもち、自主的に学び生涯に渡って学ぶことを積極的に楽しむ（坪谷ニューエル郁子 2014）

(2) 学校図書館

- ・さまざまな情報源や表現形式の資料から必要なものを選択してまとめる活動を、他のメンバーたちと協力して取り組む。
- ・課題解決を目指して新しいアイデアを形成するために、さまざまな情報を読み、聞き、見る。
- ・収集した情報をもとに、明確な根拠によって結論を導き、適切な事例をあげて主張する。

4. 評価の観点(1)地歴科

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
資料から発見したり、問いたてやその解釈を推測したりする。アイデアや意見を出し、グループで議論する。積極的に調べ、課題に取り組む。	絵画資料をよく観察し、根拠をもとに推論を立てる。多面的・多角的に見て合理性の高い解釈を考える。それらを世界史に近づけて再構成し、課題に対応させる。	疑問から主題を設定し、関連する情報を収集し、内容をまとめたり、資料の意義を推測したり、資料への疑問を提起したりする。	諸資料に基づき諸領域の文化の多様性・複合性と時代の特質を広い視野から理解する。

評価の観点(2)情報リテラシー基準 (AASL『インフォメーション・パワー』)

情報リテラシー	自主(自立的)学習	社会的責任
正確かつ創造的に情報を利用することが出来る	情報の創造的な表現を鑑賞することができる	グループへの効率的な参加を通して情報を探求し、生成する

5. 指導計画

	教科(生徒の活動)	教科指導・学校図書館支援	評価
夏休み	夏休みの課題 17～18世紀の文化に関する本を選んで読む。	☑課題の出し方についての提案。 歴「キーワードを指定して、本を探るように課題を出す」	ワークシート 歴17～18世紀のヨーロッパのイメージをつかむ。 ☑キーワードをもとに必要な図書を探して読む。
第一次	・対話型鑑賞(VTS)とは何か。 ・一人の画家の一つの絵画をじっくり見て発見をシートAに記入。 ・☑絵画について班でファシリテーターを中心にVTSをし、推論を立てる。 ・2枚目も同様に繰り返しシートBに記入。 ・2枚の絵を見比べてVTSで自分の意見を集約し、また見比べ、班シートに書き込む。	☑絵画、画家に関する図書を収集し、生徒の活動を支援する。 歴絵画の観察、問立てのためのワークシートについての提案。 歴☑VTSの要領を指導 チームティーチング	生徒の活動を観察・ワークシート 歴対話型鑑賞(VTS)のルールを踏まえて実践。多くの発想を得る。 歴☑意見を交換しあって、推論を立てていく。
第二次・本時	[パフォーマンス課題] 担当する絵画や画家についての情報や解釈を、議論を通してまとめ、成果物の作成を準備。 (詳しくは本時の展開を参照)	☑情報収集に必要な図書(またはリスト)を準備する。 歴☑タブレットの活用指導(画像・意味検索など)。 歴☑ワークシートの提案。 歴☑成果物作成準備の支援。 チームティーチング	生徒の活動を観察・ワークシート 歴歴史的事象と文化との関連を意識して解釈する。 ☑推論に関連する情報を適切に選択する。収集した情報を出し合い、不足分を補う。 歴☑他者と議論することを通して、合理性の高い解釈を導き出す。
第三次	成果物作成。 全体の成果物の批評会。 振り返りシートを書く。 各絵画の特徴を比較検討し、17～18世紀のヨーロッパについての総合的なイメージを描く。	歴☑成果物完成への支援。 振り返りシートの提案 チームティーチング	成果物『名画鑑賞のしおり』。振り返りシート 歴歴史的事象(政治・経済等)と文化とを関連付けて17～18世紀のヨーロッパを理解する。 ☑学びの過程を振り返り、新たに得た知識や理解したことを認識する。

6. 本時

(1)目標①教科・絵画資料を多面的・多角的に見て推論を立てる。班員で協同して図書などから実際のところを調べ、絵画が描かれた時代とつなげながら、他者との議論

を通してより合理性の高い解釈を選択する。

・課題をよく吟味して、何をどのような人に伝えるのかということをもまえて、文化や歴史を再構成する作業を通じて歴史学習のおもしろみを体験する。

②学校図書館・創造的に表現された情報を分析し、説明する。

(2)展開

	学習活動および内容	教科教員の動き	司書の動き	評価	(報告)生徒の反応
導入 5分	①本時の活動目標、パフォーマンス課題の確認。	教員による実践例を提示。(フェルメール)ルーブリックの提示	実例作成、提示への支援。	生徒の活動を観察	課題と実践例をみて一生懸命考えたり相談している。
展開	絵画が描かれた時代を確認。VTS で出た推論を調べ、絵画鑑賞を深める。パフォーマンス課題を検討する。				
25分	②・ 班シートから2つの絵の特徴をミニシート C 書き出す。 ・ 個人ワークシート(大)に A~C を貼り、取り巻く時代を考える。 ③・ 2つの絵画について調べ、班シートに書き込んでいく。	生徒の活動を支援する。	書の活用を支援。	班ワークシート 個人ワークシート 歴史的的事象(政治・経済)と文化を関連付け。 歴図理解を広げ、深めるために他者と協働する	ワークシートの使い方に少し戸惑う。 調べ学習スタートというと、図書にダッシュ! 面白い記述を見つけて、班員に見せあう。
15分	時代を表現する一品を選ぶ。『名画鑑賞のしおり』を作成の準備をする。				
まとめ 5分	④ みんなで議論をし、3枚目の絵を決める。 ⑤ 共同で、『名画鑑賞のしおり』構成を考え画家及び作品の解説の作成準備をする。 ⑥本時のまとめ・の予告パフォーマンス課題と次回することを確認。	各班をまわり、3つの絵の関係性が時代性と結びついているかを討議・必要な助言をする。	iPadの活用を支援。作品検索を支援する。 必要な資料を補足する。 生徒の活動を支援、評価する。	歴図他者と議論することを通して、論理的で説得力のある解釈を導き出す。 有効な情報検索方法により、必要な情報を獲得する。	3枚目を早々と決めた班、教科担から突っ込まれて、頭を抱える。 ネタ探しに夢中になる生徒も。 世界史との結びつけが分からずフリーズする班、教科担がガイド。

資料 1: 夏休みの課題

最近では読書をさせてもコピーでやっています。このように、特定の要素を抜きださせる様式ならこちらの期待した取り組みをしてくれました。

世界史[夏休みの課題] 2015年7月15日

夏休みの間に、世界史に関係する本を一冊読んでください。図書館やアマゾンなどの検索で、以下のキーワードをもとにこれはというものを一つ選んでください。キーワードから本を選ぶと、17~18世紀のものになるはず。歴史本だけでなく、美術書、小説でもかまいません。しかし、その本を読んで、とらえてほしいのは「その時代を理解(イメージ)すること」です。そのため、課題の成果として感想文を書くのではなく、ワークシートに沿って、レポートを提出してください。

<p>芸術</p> <p>ルーベンス ベラスケス レンブラント フェルメール ゴッダ モリエール ベルサイユ宮殿 サ ンスーン宮殿</p>	<p>哲学・思想</p> <p>フランシスベーコン デカルト グロティウス ホッブス ロック ヴォ ルテール</p>
<p>時代を変える政治家や重要人物</p> <p>フリードリヒ 2世(プロイセン王) マリア=アレクサンドロ ビョートル 1世 エカチ エリーナ 2世 マリア アントワネット ルイ 16世</p>	<p>科学</p> <p>ニュートン ボイル ハーヴェー フランクリ ン ジェンナー ラヴ オワジェ</p>

このキーワードが出てくれば、それで構いません。例えば、フランス革命をメインにした本を読んで、そこにマリア=アントワネットが出てくればOKということです。

世界史[夏休みの課題ワークシート]

1年 組 番名前[]

○読んだ本
著者名 [] 書名 [] 発行所 [] 発行年 []

○本の内容について説明してください。※細かいところではありません。

Where []

When []

Who []

What []

○本を読んで、考えましょう。テーマ「その時代を理解(イメージ)すること」について考えたこと、わかったこと、疑問に思ったことを3つ書く。

[]

[]

[]

おすすめであれば、その思いもろこつと書いてください

資料 2 : 対話型鑑賞「Visual Thinking Strategies」(前時に実施)

対話型鑑賞法 VTS—Visual Thinking Strategies とは、

☞質問は3つだけ

「この作品の中で何が起こっていますか」

「作品のどこからそう思いましたか」

「もっと発見はありますか」



中心に対象物をおいて語り合えると言える！

この3つの質問が、じっくり観察をすること、根拠を持って意見を言うこと、他の意見を聞いて深めたり発展させたりすることにつながり、議論のを一ミングアップになった。

※ちなみに美術教育では個人の鑑賞力を身につけるのが目的なので、ファシリテーターは自身の解釈を加えず、オープンデンドで終わらせる。

資料 3 : 用具類

- 調べ学習用書籍／画集計 55 冊
- VTS 用の絵
(この上に透明シートを乗せてホワイトボードマーカーで書き込む)
- 思考の可視化・活動の記録
- 色画用紙
- プリントアウト画像など

付箋のように使用する、色メ

3 枚目画像検索用



資料 4 :

パフォーマンス課題

※「さまざまな現実的な状況や文脈で知識とスキルを使いこなせる能力を評価する」ための課題

参考：ダイアン・ハート著、田中耕治訳『パフォーマンス評価入門』2012

パフォーマンス課題

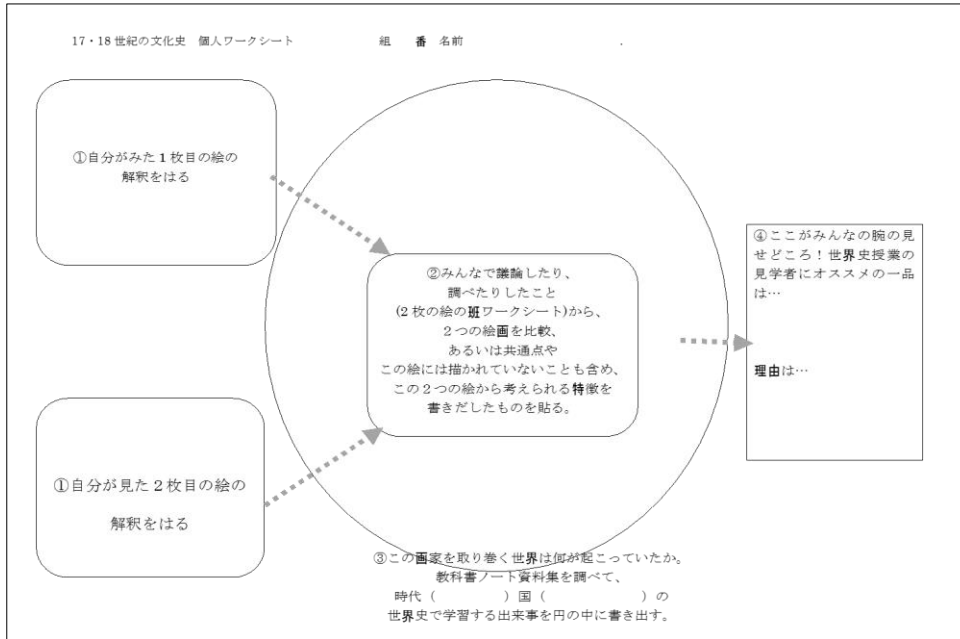
☞次に書かれた課題を読んで、役割、状況、誰に向けてなどの諸条件をよく考えて、みんなで知恵を絞って、取り組んでください。

あなた方は附高美術館のキュレーターです。特別展「17～18世紀のヨーロッパ絵画-時代を生きぬいた名匠たち-」の名画鑑賞講座で、高校1年の世界史の授業で見学に来ている生徒に絵画の説明をします。特に担当するのは画家〔 〕の「()世紀(国名)絵画の時代」のコーナーです。担当するその時代の『名画鑑賞のしおり』を作成して配布します。鑑賞ポイントを分かりやすく示して、名画の魅力と世界史とのつながりを十分に伝えるものを作成してください。

その際、その時代を表現するあなた方のオススメの一作品も加えてください。

資料 5 : 絵画資料 (4 種 × 2 班) : レンブラント「夜警 (1642 年)」「テュルプ博士の解剖学講義(1632 年)」／ルーヴェンス「レウキッポスの娘たちの略奪(1617 年頃)」「キリスト昇架(1610 年)」／ベラスケス「薔薇色のドレスの王女(1653 年)」「白いドレスの王女(1656 年)」／フラゴナール「ブランコ(1767 年)」「読書をする女(1776 年)」

資料 6 : 個人ワークシート



資料 7 : 班ワークシート (4種類 × 2班)

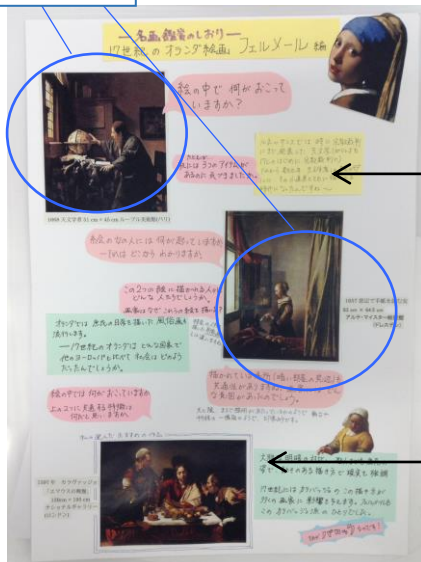
※前時(第1次) : 2枚の絵を見比べて VTS で意見を集約し、班シートに書き込む。

※本時(第2次) : 2つの絵画について調べ、班シートに書き込んでいく。



資料 8 : 成果物の例 (教員チーム作成)

2つは課題の絵



付箋を使うと動かせるので構成が考え易い



自由に選べる「3枚目」が鍵!



資料9：成果物『名画鑑賞のしおり』のルーブリック

	絵画・画家(文化)	時代背景(政治・経済)	根拠・論理性	課題の理解	取り組み
A	絵画・画家についての理解が十分であり、創造的、魅力的に表現している。	絵画が描かれた時代・国についての理解が十分であり、絵画と歴史とのつながりが表現できている。	できるだけ多くの情報を分析して適切な結論に至る。明確な根拠を提示して十分論理的といえる。	課題設定に十分に合致している。	話し合い、調べ合いを積極的に行い、 <u>班の成果を高めた。</u>
B	絵画・画家についての理解がほぼできており、不適切な表現がない。	絵画が描かれた時代・国についての情報は集めたが、絵画とのつながりが弱い。	調べた情報を根拠にした説明を展開している。	課題に合致していない部分がある。	話し合い、調べ合いを <u>普段よりも積極的に行った。</u>
C	絵画・画家についての理解が不十分であり、必要な情報が表現されていない。(根拠のない表現がある。)	絵画が描かれた時代・国についての記述が不十分であり、世界史の必要な情報が表現されていない。	根拠なく主張している部分がある。	課題設定の一部のみ合致している。	話し合い、調べ合いをしたが、 <u>課題の完成には参加しなかった。</u>
D	絵画・画家についての記述がほとんどない。	時代背景についての記述がほとんどない。	根拠のない主張を展開している。	課題を理解していない。	話し合いや調べ合いには加わらなかった。

資料10：評価の結果（教員チーム評価と生徒自己評価）

3枚目	観点	T1	T2	T3	T4	教員中間値	生徒中間値
レンブラント (3班) 織物商組合の見本調査官たち	絵画/画家(文)	A	B	A		A	B
	時代背景	A	A			A	B (BBCCA)
	根拠・論理性	A	A	A	B	A	B+
	課題の理解	A	A	A	A	A	A
レンブラント (4班) 沈黙する哲学者	絵画/画家(文)	B	B			B	B
	時代背景	B	B			B	B+
	根拠・論理性	B	B	B	B	B	B
	課題の理解	B	B	B	B	B	A-
ベラスケス (6班) レオポルド1世(ブロック)	絵画/画家(文)	B	A			A-	B
	時代背景	A	A			A	B
	根拠・論理性	A	A	B	B	A-	B
	課題の理解	B	A	B	A	A-	A
フラゴナール (7班) 逃げるふりして	絵画/画家(文)	B	B			B	B
	時代背景	C	A			B	B-
	根拠・論理性	B	B	B	C	B	C
	課題の理解	B	A	B	C	B	A

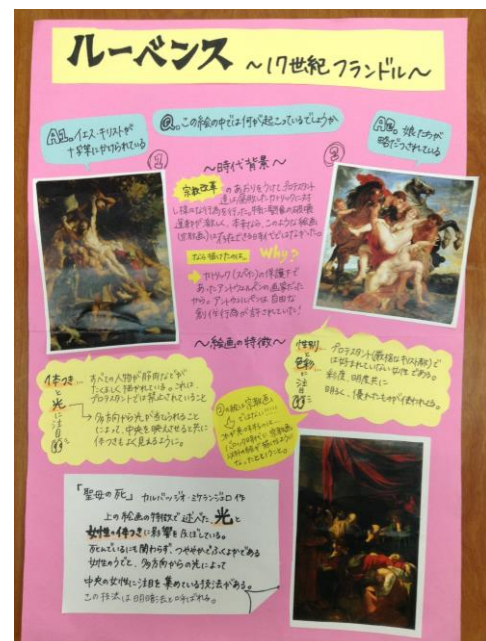
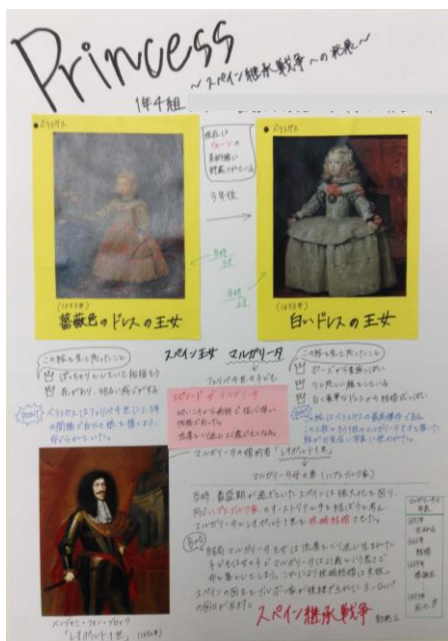
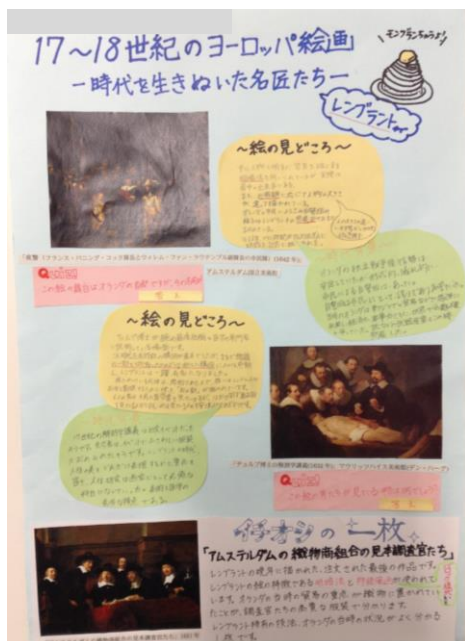
S1	soso
S2	soso
S3	情報を集めるだけでなく、それをつなげて考えを深めることが大事と思った。絵から何かと導き出すのは楽しかった。
S4	絵画から国々の歴史背景をこんなにも多く読み取れることに驚きと感動

「今回の学びは？」コメント

S5	「今回の学びは？」コメント 絵画に込められているメッセージは宗教的国際的情勢を表している。また画家も様々な身分の人がいてその視点から描かれていて面白い。
S6	絵から当時の状況を読み取ってその後起こったことと関連づけていく。
S7	私の班はスペイン継承戦争とつながることができたので達成感がある。
S8	時代の絵画を鑑賞することで、その時代に起こったことまで推察することが面白かった。
S9	描かれた時代背景などから世界史につなげていくことの重要性

資料 11：生徒の成果物例

2枚の共通課題＋班で選んだ3枚目で、世界史ベースで解説を展開



中:この時期のスペインの教科書での記述は少ないがうまく結びつけられている。

右(別のクラス):絵画の題名、所蔵の書き忘れ。しかし教科担が想定していた解釈でないものが出てきた。

主な参考文献

佐藤廣著「絵画史料を活用した歴史授業構成の研究--先行授業実践の分析と授業モデルの設計」『社会科系教科教育8』1994年

坪谷ニューエル郁子著『世界で生きるチカラ』ダイヤモンド社 2014年

岡山県立美術館 http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/kenbi/kuni_guide/8_9_10.html

※VTSの実践例(高校生)なら https://www.youtube.com/watch?v=bi19e_OHDgo

フィリップ・ヤノウィン著 京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター訳『学力をのぼす美術鑑賞』淡交社 2015年

福のり子 北野諒 編著『みる 考える 話す 聴く(鑑賞によるコミュニケーション教育)』日本文教出版 2013年 (日文教育資料[美術]として配布)

Gウィギンズ、Jマクタイ著 西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準 2012年

AASL 編著全国 SLA 海外資料委員会訳渡辺信一・平久江祐司・柳勝文監訳『シリーズ学習者のエンパワーメント第1巻 21世紀を生きる学習者のための活動基準』全国学校図書館協議会 2010年

AASL・教育コミュニケーション工学協会(AECT)編著同志社大学学校図書館学研究会訳『インフォーション・パワー:学習のためのパートナーシップの構築』同志社大学 2000年

塩見昇編著『教育を変える学校図書館』風間書房 2006年

eラーニング講座(gacco) <http://gacco.org> の「インタラクティブ・ティーチング講座(東京大学FD)」2015